スポーツニッポン
昭和63年(1988年)2月4日(木曜日)

NO. 53

雄物川を変えるホバークラフト

初の全国大会3・3開催

白い水しぶきを上げ、川や湖を突き進むホーバークラフト。大型のホーバークラフトは交通機関や観光用として運航しているが、この度、小型のホーバークラフトが登場。第一回全日本ホーバークラフト大会が開催される。会場となるのは〝大綱引き〟で知られる秋田県仙北郡西仙北町の雄物川。しかも無形文化財となっている伝統行事の大綱引きと同じ三月三日に開かれる。新型のイベントが同日開催とあって町は早くもフィーバーしている。

スポニチ ふるさと版

〝大綱引き〟と豪華2本立て

「まだ、どこもやっていないホーバークラフト大会を開こう」と決定した。〝ホーバー北町。六十二年八月の三度の洪水に襲われ、国道もストップしたほどだった。この悩みの種である雄物川を逆に明るく利用するには？と町の商工観光課が協議し、〝クラフト発祥の地〟として売り込む作戦だ。町側も大会に向け生産工場や常設コースの設置などを計画し着々と準備を進めている。

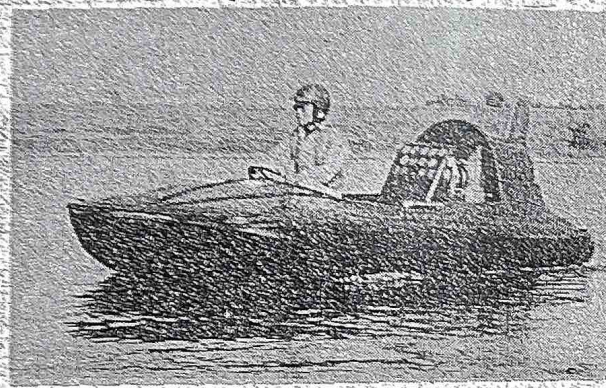
西仙北町の商工観光課長・高橋文男氏（42）は、ホーバークラフト大会によって「町に活力がやどり、全国から一人でも多くの観光客が訪れることを願っている」と強く主張。「この大会が定着すれば西仙北町も活気づき、開けるだろう」と期待に胸をふくらませている。

昨年十一月には約三百艇が加盟した全日本ホーバークラフト協会は「この大会を機に全国に名を広め、正式なスポーツとして定着させたい」と考えている。

「当日は三十艇が3㌔の水陸コースでタイムを競う。地元・西仙北町からは二艇が参加する予定だ。前日には、ミニ独立国のサミットもあり、各国の大臣が、この日、勢ぞろいする。西仙北町の国名は〝秋田カエル村大国〟として加盟され、「ふるさとに残る、自然に返る、そして生き物のカエル」などをすべてひっくるめて名付けられたもの。六十七、八年に開通予定の東北横断自動車道、湯田温泉などを名物に今後もどんどん名を広めていく意向だ。

三月三日は、昼間にホーバークラフト大会を行い、夜には雄物川を挟み町を二分して争う大綱引きを催す予定でこの一日中、刈和野地区は歓声が上がりっぱなしになりそうだ。

（丸田・里美）



桃の節句の3月3日、30艇のホーバークラフトが雄物川を爆進する

「町の活性化に…」

西仙北町